

## SQL 応用 ～研修受講前テスト 解答～

## ■問題1【SQLのコーディング】

可読性の向上について、以下の説明文から正しいものを2つ選んで下さい。

- オブジェクトの名前には、役割や格納されている値を判別できるような名にすべきである。
- コメントを挿入するとソースコードが増えて読み辛くなるため、使用すべきでない。
- 適時、改行と段落付けを行い、各処理内容を明確にする。
- 可読性向上のテクニックは、各開発担当者が独自に理解し、実践していればよい。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>序-3 ～ 序-8

## ■問題2【SQLのコーディング】

SQLのコーディングについて誤っているものを2つ選んで下さい。

- SQLがテキストレベルで同じであれば同一SQLと見なされ、解析結果を再利用できる。
- 解析はデータベースに一定の負荷が掛かるため、解析結果を共有すればパフォーマンスを向上できる。
- 同じ結果が得られるのであれば、どのような記述してもパフォーマンスは同じである。
- 標準SQLを使用する一番の目的は可読性向上のためである。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>序-9 ～ 序-12

## ■問題3【条件分岐】

CASE式について正しいものを2つ選んで下さい。

- CASE式は他の条件分岐関数と比べ、可読性という観点で劣る。
- 記述方法として、単純CASE式と検索CASE式の2つがある。
- ELSE句では、CASE式でエラーが発生した場合の対応方法を記述する。
- 最後にEND句を指定することでCASE式は終了する。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>1-1 ～ 1-4

**■問題4【条件分岐】**

CASE 式以外の条件分岐について誤っているものを1つ選んで下さい。

- COALESCE 関数は、ゼロを NULL に置き換ええる関数である。
- NULLIF 関数を使用するとゼロ除算エラーを回避できる。
- MERGE文は、条件に応じてUPDATEまたはINSERTを行える。
- COALESCE関数は標準SQLである。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>1-11 ~ 1-22

**■問題5【値の集計・分析】**

グループ化の処理として誤っているものを1つ選んで下さい。

- GROUP BY句にCASE式を組み合わせると、任意のグループに分けて集計処理が行える。
- SQLは集合指向という発想に基づいた言語である。
- HAVING句では、様々な条件式を組み合わせることで、グループ化した集合の性質を調査できる。
- 異なる条件の集計処理をSQL1文で行うことはできない。
- 分からない

<テキスト掲載箇所>2-1 ~ 2-12

**■問題6【値の集計・分析】**

分析関数の説明で誤っているものを2つ選んで下さい。

- 分析関数では、分析対象のグループを指定できないため、インラインビューなどで事前にグループを作成しておく。
- 集計関数を分析関数として利用する方法と、専用の分析関数を利用する方法がある。
- 分析関数は集約関数と同じように1つのグループに対して1つの結果を戻す。
- 分析関数ではOVER句を使用する。
- 分からない

<テキスト掲載箇所>2-13 ~ 2-24

**■問題7【値の比較】**

相関副問合せの説明で正しいものを2つ選んで下さい。

- 相関副問合せを使用すると、通常手続き型言語で行う繰り返し処理が実行できる。
- 相関副問合せを使用すると、パフォーマンスの向上を期待できる。
- 同様の処理が分析関数でも行える場合でも、相関副問合せの方がパフォーマンスが良い。
- 相関副問合せとEXISTS述語は組み合わせて使用することが多い。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>3-1 ~ 3-8

**■問題8【値の比較】**

EXISTS 述語の説明で誤っているものを1つ選んで下さい。

- EXISTS述語は、EXISTSに続く副問合せで1行でも戻れば「TRUE」と評価される。
- EXISTS述語使用時は、副問合せの結果を1行ずつ確認していき、条件に合致する行が1つでもあればそこで処理を終了する。
- EXISTS述語は、IN演算子と同様の処理ができる。
- EXISTS述語に続く副問合せの選択リストには、列名は指定できない。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>3-9 ~ 3-13

**■問題9【NULLの取り扱い】**

NULLの問題の説明で誤っているものを1つ選んで下さい。

- 計算式に1つでもNULLが含まれていると、結果がNULLになってしまう。
- RDBMSが条件をTRUE、FALSEで扱う、2値論理を採用しているのがNULLの問題の原因。
- 使用する演算子によっては索引が使用されない場合がある。
- ホスト言語でNULLの扱いが標準化されていない。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>4-1 ~ 4-4

■問題 10 【NULLの取り扱い】

NULLの排除と対応策の説明で誤っているものを1つ選んで下さい。

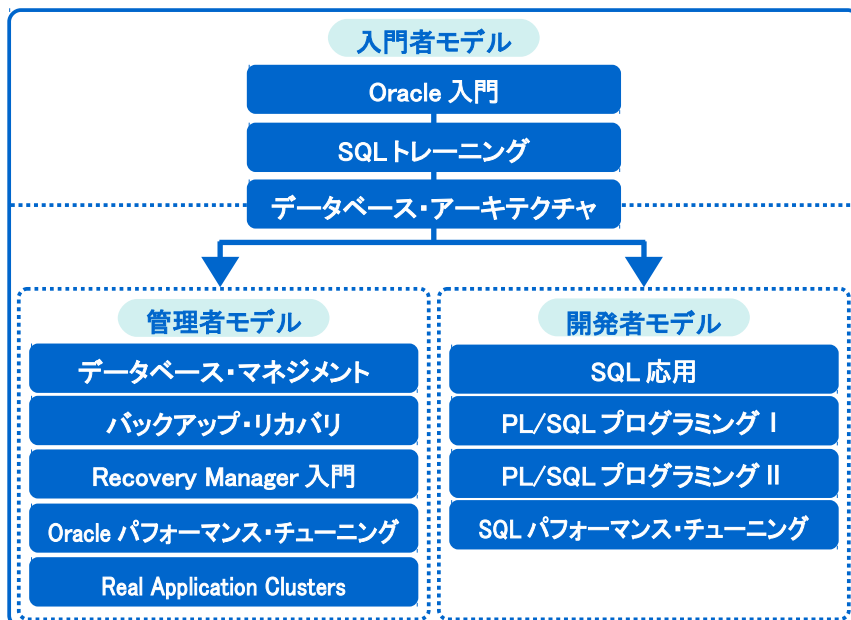
- NULLは、運用中に発生した段階で対策を採ればよい。
- 列にDEFAULT句を定義することでNULLの発生を防止できる。
- 使用する演算子によっては、条件評価でNULLが含まれているとレコードが選択されない場合がある。
- 外部結合を実行するとNULLが発生してしまう。
- 分からない。

<テキスト掲載箇所>4-5 ~ 4-14

**I**nformation

アシスト Oracle 研修内容の詳細については下記ページをご覧ください。  
<http://www.ashisuto.co.jp/ojt/course/oracle/>

**ア**シストOracle研修受講モデル



<入門者モデル>

Oracleの基本構造やSQLの基礎構文など、Oracleの全体像を理解できます。新入社員や異動された方など、これからOracleに携わる方にぴったりのモデルです。

<管理者モデル>

管理者として必要な運用管理タスクの理解やバックアップリカバリ、システムチューニングの技術を習得できます。

<開発者モデル>

Oracleを使用した開発に必要なPL/SQLの習得、索引やSQL記述方法などによるSQLチューニング技術を習得できます。

※研修内容についてご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

アシスト教育部：【TEL】0120-874-337 / 【FAX】0120-874-437/ 【E-Mail】[edusup\\_ora@ashisuto.co.jp](mailto:edusup_ora@ashisuto.co.jp)